

熊野高等学校

実施日時	平成30年 10月 21日(日)
参加者	生徒546名、教職員51名、役場・上富田消防署・陸上自衛隊・国土交通省職員・地域住民約350名 計947名
実施内容	地震避難訓練、心肺蘇生ダンスデモンストレーション、防災訓練・トレーニング等

事前の取組

合同訓練のため、本校管理職・防災担当・サポーターズリーダー顧問と上富田町防災担当・上富田消防署・陸上自衛隊の方と町の案をもとに、本校生徒がどのような活動を行うのか検討を行った。また防災トレーニングについては、生徒活動部が事前に生徒に上富田町役場等で知識・技術を身につけさせた。

主なプログラム

①震度6強を想定した地震避難訓練。訓練用の緊急地震速報を受信し、3分間の揺れの後、事前に想定した経路〔中庭を通らない〕を通して避難する。グラウンドでの点呼確認、担任⇒学年主任⇒教頭への報告を行う。



●一時避難(机の下に身を隠し、特に頭部を保護する)

②心肺蘇生ダンスをサポーターズリーダー(本校クラブの1つ)が地域住民に対してデモンストレーションする。

③上富田町民の避難訓練。上富田文化会館に集合

していた住民代表の避難と並行してサポーターズリーダーが本校周辺地区住民の避難誘導を行う。

④受付を終えた地域住民とともに本校グラウンドにて、放水訓練と防災ヘリによる患者搬送訓練を見学する。並行して本校サポーターズリーダー生徒と住民代表が協力して炊き出し訓練を行う。

⑤防災訓練

本校各学年と地域住民の4グループのローテーションで以下の内容を体験。時間の関係で代表者が体験するものがあった。

- 1.煙体験
- 2.ロープワーク(陸上自衛隊の指導)
- 3.土のうづくり・がれきからの救出訓練
- 4.消火訓練(消火器を用いて)



●煙体験(身を低くして煙を吸わないように歩く)



●土のう作り・がれきからの救出訓練(てこの原理を利用してがれきに挟まれた人を救出する)



●消火訓練(消火器をもちいて初期消火の訓練)



●ロープワーク(ロープをもちいてけが人を担いで運ぶ訓練)

⑥防災トレーニング〔午後・本校生徒のみ〕

事前にクラブ員を中心に生徒達が上富田町役場等で防災に関する知識・技術を身につけ、それを全校生徒に伝達講習する形でトレーニングを行った。内容はパーティションの組み立て・マイトイレとマイスリッパづくり・搬送・介添え（歩行者・車いす）。



●マイトイレ・マイスリッパ作り（新聞紙とビニール袋で非常時のトイレ・スリッパを作成）

参加者感想文

（感想文を書かせていないため、教職員の感想）

大規模な防災訓練であるが、例年大きな混乱もなく良い訓練だと思う。学校としては1次避難（机に身を隠す）と2次避難（グラウンドに速やかに避難する）が最も大事であるが、上富田町との合同防災訓練では消火器体験等様々な体験ができるので、生徒達にとって非常にいい経験だと思う。

成果と課題

本校は上富田町と町づくり地域連携協定を結び、地域の方々と積極的な交流を行っており、町との合同防災訓練については毎年の恒例行事となっている。特にサポーターズリーダー部については、普段から地域のお年寄りの声かけやさまざまなイベントでのボランティア活動を行っている。このため、防災訓練においても地域の方々と様々な形で協力し、災害時における地域と高校のあり方の良い例となっている。その他の生徒にとっても、

地域住民の方と大規模な訓練に参加することで、自身の安全に加えて、災害時に高校生が果たすべき役割について学ぶ機会となっている。

大人数の訓練であるので、関係機関・校内の調整に時間を要したが、今年も大きな問題は起こらずに終了することができた。一方、合同訓練の中で本校の主体的な取り組みをどのように充実させていくのが課題である。訓練はサポーターズリーダー部が大きな役割を果たしているが、サポーターズリーダー部員以外の生徒の活動を体験のみに終わるのではなく、さらなる充実を検討していく必要がある。